

三閨廟 さん けい びやう

戴 たい

叔倫 しゆく りん

沅湘流れて 尽きぬ げん しやう なが れて っ き ぬ

屈子怨み何ぞ深き くつ し うれ 何 ぞ ふか き

日暮 秋風起 にち ぼ しゆう ふう お 起

蕭蕭たり 楓樹の 林 しやう しやう たり ふう じゆ の はやし

【作者】戴叔倫(七三二〜七八九)・中国, 中唐の詩人。金壇(江蘇省)の人。字は幼公。撫州刺史として治績をあげ、晩年は退いて

道士となった。韋応物らとともに中唐初期にあつて、五言詩を得意とし、田園、山林を詠じ、閑雅な幽情を叙した詩が多い。

【通釈】沅江と湘江と二つの川は、いつまでも流れて、つきるとがなない。それとをいつきない屈原の怨みも、なんと深いことだろう。

日暮れどき、秋風が吹きおこつた。さびしき音をたてている、かえでの木の林よ。